

在宅診療に特化

「おー、ふうちゃ
ん、元気?」。愛知県
尾張旭市の自宅で、横
になっていた加藤楓也
ちゃん(三)に服部努さ

約二十分診察。お気に
入りの服部さんが来
て、楓也ちゃんは楽し
そつだ。

超未熟児で生まれ、
一歳半まで病院の新生
児集中治療室(NIC
U)で過ごした。服部
さんが、楓也ちゃん宅
を診療で訪れるように
なって一年半。「退院
したころは人工呼吸器
が必要で、不安でいっ
ぱいだった。家に帰っ
て大きなトラブルなく
成長できたのは、先生
のおかげ」と母親は話
す。

んが笑顔で呼び掛け
た。
食事の状況などを聞
き、体調を悪化させな
いたための助言を交えて

クリニックは在宅専
門。名古屋市東部と近

たんぽぽクリニック (愛知県長久手町)

つとむ 服部 努さん(45)

はっ とり 院長 服部



「大きくなったな」と楓也
ちゃんに声をかける服部努
さん＝愛知県尾張旭市で

郊の通院困難な在宅患
者約百二十人の自宅を
回る。「在宅医療は暮
らし全体をみる。人間
らしく、患者と関われ
るのが魅力」。往診で
休日もよくつづれる
が、患者が自分を待つ

ていると思つと苦にな
らない。「趣味は在宅
診療」と言い切る。
現場で活躍する医師の
姿にあこがれ、医学の
道に。各地の病院に勤
めるうちに、在宅医療
の問題に目がいくよう
になった。

暮らしし全体をみる

在宅医療の受け皿が
ないために退院でき
ず、やりたかったこと
ができずに亡くなるが
ん患者に数多く出会っ
た。病院から迫られて
退院したものの、二十
四時間体制の訪問診療
や訪問看護がないため
に、不安におびえる患
者や家族もいた。「家
で暮らしたい患者さん
の力になりたい」と思
った。
だから、どんな病気
の患者でも受ける。N
ICUを退院した赤ち
ゃんから、末期がんの
人、寝たきりの高齢者
まで、患者の状態はさ
まざまだ。
多くの場合、何とか
なる。でも、脳血管疾

患の後遺症や難病で、
介護が長期化する場合
などでは、家族が疲れ
果て、在宅療養が困難
になるケースも。
どんな患者にも在宅
の選択肢を示したいと
今月、看護師や介護ス
タッフが常駐する賃貸
住宅を同県長久手町に
建てた。自宅のように
過ごせ、病院のような
安心感もある空間。服
部さんは訪問診療に関
わる。「患者さんの別
宅」と位置付ける。
「踏まれてもへこた
れないタンポポのよう
に、地域に根差した医
療機関に」。クリニッ
クの名前は、そんな思
いを込めている。

(佐橋大)